

2025 年度

野洲市教育研究所だより

No.09

2025.7.22

5 年目スキルアップ研修モデル授業と公開授業

モデル授業を引き受けてくださった先生方、ご協力ありがとうございました。

モデルの授業参観では、5 年目の先生方から次のような感想が出ました。

- ・同じ学年の先輩教員の授業を 1 時間じっくり見せてもらえる機会ができてありがたかったです。
- ・授業後に工夫されていた点について協議できたので、参観で学んだことがより深まり、今後の指導につながるイメージができました。
- ・学習規律、具体的なアドバイスの大切さを感じました。
- ・単元を貫く問いが系統立てて考えられていました。
- ・子どもの意見からめあてをつくっていく導入が勉強になりました。
- ・話し合いをさせることが、学び方の一つとしてしっかり成り立っていました。
- ・受験対策も大事だが、その教科の本来の面白さを伝えることも大切だと思いました。
- ・それぞれの学年で系統立ててすべき学習をしっかり行う必要性を感じました。
- ・めあてやまとめを子どもから引き出す努力をしていきたいです。
- ・次時の学習につながる振り返りにすると学習が自然につながっていくと感じました。
- ・子どもたちが学んだことを生活に生かせるなど、有用感を感じさせるとよいと感じました。
- ・授業の持っていく方やどのような教材が子どもの学びに合っているかなど、いろいろな視点で考えることができました。

モデル教員の 授業の様子



学習規律、単元計画、課題設定、導入の仕方、発問、支援の仕方、板書計画、協働活動、個別支援、発表のさせ方、振り返り、等多くを学ばせていただきました。

また、自分が行った公開授業の振り返りでは、以下のような言葉が聞かれました。

- 黒板掲示は授業で使うことを優先させ、他の掲示物は、別の場所に掲示します。
- 聞く姿勢をしっかりと作らせてから、話す人に発表させます。
- 単元最初のオリエンテーションで、学習の内容や流れが分かるように子どもたちに示しています。
- 単元のゴールを子どもたちと考え、それに向かって授業づくりを子どもたちと一緒にするように心がけています。
- 前時の学習（復習）から、本時の課題を示せるように気をつけています。
- 1時間の流れを子どもたちに示すことで、見通しをもって学習を受けられるようにしています。
- 学習の流れ「めあて、自分で考える、ペア・グループタイム、発表、まとめ・ふりかえり」を示しながら、1時間の学習を進めるようにしています。
- 子どもにモデル活動をさせるとき、何をクラス全体に知らせたいかを明確にして実施しています。
- ノート・プリントかタブレットかどちらがよいのか迷うときがあります。
- 子どもたちに考えさせる時間をしっかりとる必要を感じました。
- 抽象的な内容の箇所を、具体的に考えさせるようにするとよかったと思います。
- 何のためのグループ討議なのかを意識させて、討議させます。
- グループ討議でモデルの会話を示してから、取り組ませます。
- グループ討議で、自分の考えを示すのに抵抗がある子どもたちに、考え得る多様な意見を出させるというふうにすると考えが出しやすいということが分かりました。
- グループ学習で、子ども同士が話し合うことで新たな気づきが見つかるようにしています。
- 全体学習で、みんなで考え、やり方を理解させてから個別の学習に入ります。
- 授業の最後にまとめ・振り返りをして、次時の導入につなげたり、活かせるようにしたりできるように考えたいです。板書がそれにいかせるように構成を考えていきたいです。
- 単元の最後に、自分自身との関わりを記述させ、思考判断の評価に活かしています。
- 「主体的な学び」である学びに向かう力、人間性の評価をどのように客観性を持たせるとよいのか考えているが難しいです。
- 学習環境（場づくり）を中心に授業づくりを考えていくことができました。

5年目教員の 授業の様子





今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは、最下段に載せています。

菅原神社は、永原天神と呼ばれ、人々から親しまれています。その祭神は、学問の神様で知られた「菅原道真」です。藤原定家（鎌倉時代初期）や宗祇（室町時代）といった名高い歌人が訪ねており、室町時代には連歌や和歌の会が盛んに行われました。その後、北村季吟（江戸時代）も歌を詠んでいます。

さて、菅原神社の本殿は何番でしょうか？

①



②



③



④



おすすめの図書



『ごく普通の公立小学校が、校内研究の常識を変えてみた』

葛原 順也・花岡 隼佑 著

出版社 明治図書

「やらねば」から「やってみたい！」の校内研究へ
校内研と聞くと「やらされ感」「負担が大きい」など、ネガティブな印象が浮かびませんか？そんな校内研を「やりたい」「楽しい」ポジティブなものに変えるために、公立小学校で積み重ねられた試行錯誤がまとめられています。本書を通して校内研の在り方を考えてみてはいかがでしょうか。

序章 校内研の常識を覆す6つの視点

第1章 校内研の改革に必要な「巻き込み」力

第2章 新しい「グループ研究」のススメ

第3章 職員同士が仲良くなる校内研修へ

第4章 新時代の研究発表会アップデート



『学校の片づけ術』

今日からできて、「キレイ」が続く仕組み作り

伊藤 寛子 著

出版社 学事出版

学校が片づかないのは、「片づく仕組み」がなかったから！
「片づく仕組み作り」のための基本的な考え方や具体的なポイントを、豊富な図解と写真で分かりやすく提示するとともに、著者がこれまで携わってきた学校の片づけ実践事例を写真付きで紹介しています。

章立ては、「片づけることが山ほどある学校」、「片づけるってどうすること？」、「『分ける』仕組み作り」、「『見える化する』仕組み作り」、「『動作を楽にする』仕組み作り」、「職員室を片付ける」、「書類を片付ける」など。小学校教諭31年勤務後、整理収納アドバイザーになり、収納王子コジマジックのアシスタントになった著者は、「片づけは生き方そのもの」の精神で、収納サポートや講座等で活躍されています。

①は御社本社 ②は大野原神社本社 ③は藤原神社本社

ちかみに

④ まなび野洲の未来を